

シノブ *Davallia mariesii* (シノブ科)



撮影: 今井 建樹

生態情報

Ⅰ 大きさ、葉の形

地下にある茎は、太さ3~5mmで淡い褐色の鱗状のものでおおわれます。葉は羽のように裂け、毛はありません。葉の表面の脈はもりあがります。

Ⅰ 生えている場所

北海道(渡島)、本州、四国、九州、琉球の山の樹の幹や岩の上に着いています。

Ⅰ 花のようす

孢子(普通の植物の種子と同じもの)は、裂けた葉に1個つきます。冬には葉を落します。

参 考

「新潟県の絶滅のおそれのある野生生物」で絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。シノブ玉として栽培・鑑賞され、古くから歌にも詠まれています。名前のシノブは「忍」で、土がなくても育てることができるのは耐え忍ぶ性質が強いからと説明されています。

クモノシダ *Asplenium ruprechtii* (千ヶセンシダ科)



撮影: 長井眞隆

生態情報

Ⅰ 大きさ、葉の形

葉は1枚ずつ革のような感じで、四方に広がっています。葉の茎の根元には、暗褐色の鱗の様なギザギザがたくさんあります。

Ⅰ 生えている場所

北海道、本州、四国、九州、対馬などの石灰質の露岩上に生えています。

Ⅰ 花のようす

一年中枯れない常緑性で、乾燥にも強いです。葉の裏側に孢子をつけ、6月頃に風に運ばれて広がります。

参 考

「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑—中部(山岳編)—」の中部山岳国立公園で、稀少種に選定されています。土が石灰を多く含む、石灰岩地という特殊なところに生えます。

サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* (クルミ科)



現地撮影

生態情報

Ⅰ 大きさ・葉の形

冬に葉をおとす落葉の高木で、高さ10~20m、太さ1mになります。葉は鳥の羽根のように羽状に裂けた複葉(1枚の葉がいくつかの小さな葉からなるもの)で、11~21対の小さな葉からなっています。

Ⅰ 生えている場所

北海道、本州、四国、九州の山地の川沿いの小さな石や砂が混じったところに生えています。

Ⅰ 花のようす

花の咲く時期は4月末~6月です。1つの木に長く垂れ下がった黄色い雄花とおぼな雌花をつけます。

参 考

名前のサワは沢の意味で、溪流を代表する植物です。溪流沿いに生息する動物が住むところや休むところとして利用します。

ケショウヤナギ *Chosenia arbutifolia* (ヤナギ科)



撮影: 桜井 善雄

生態情報

Ⅰ 大きさ・葉の形

冬に葉をおとす落葉の高木で、高さ30m、太さ1mになります。小枝は晩秋から春にかけて紅色を帯びて美しく、またしばしば白粉でおおわれます。

Ⅰ 生えている場所

北海道の日高・十勝地方と長野県上高地及び梓川下流にのみ生えています。

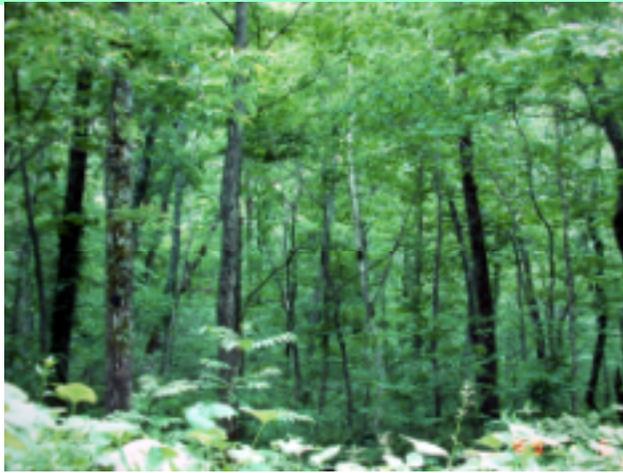
Ⅰ 花のようす

花の咲く時期は4月下旬~5月です。雄花と雌花は別々の木に咲き、花粉は風によって運ばれます。

参 考

環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。高さ2~3mくらいまでの幼木では白粉が特に著しく、全体が真っ白になります。名前のケショウはお化粧をしたようであるという意味です。

ドロノキ *Populus maximowiczii* (ヤナギ科)



撮影:長井 眞隆

生態情報

I 大きさ、葉の形

落葉高木で、冬に葉を落とします。高さ約30m、太さ15mになります。葉には長い柄だえんけいがあり、楕円形で、表面は濃い緑色で、裏面は淡い緑色です。

I 生えている場所

北海道、中部地方以北の本州の日当たりのよいやや湿ったところに生えており、河岸を好みます。

I 花のようす

花の咲く時期は4～5月です。雄花おぼなと雌花めばなは別の木に咲き、葉より先に現れます。

参 考

「小谷村レッドデータブック」で稀少種きしょうしゆに指定されています。
日本で見られるポプラの仲間です。材はマッチ棒じくの軸などに用いられています。

ネコヤナギ *Salix gracilistyla* (ヤナギ科)



撮影:長井 眞隆

生態情報

I 大きさ、葉の形

冬に葉をおとす落葉らくようの低木で、高さ2～3m程度です。細長い葉が交互にたくさんつきます。葉は革のような感じで、深緑色です。葉には毛が生えています。

I 生えている場所

北海道から九州に分布します。冬には葉を落とす落葉らくようの低木です。山地溪流けいりゆうや中流の流れが急なところなどに生えています。

I 花のようす

雄花おぼなと雌花めばなはそれぞれ違う木に咲く雌雄異株しゆういかぶで、春先に葉が開く前に花(花序)を出します。花序は絹毛きぬげが目立つふさふさとした感触で、銀色に光り特徴的です。

参 考

溪畔けいはんに広く生育する種です。花序は絹毛が目立つのでふさふさとした感触であり、これをネコの尻尾しっぽにみたてて、ネコヤナギの和名が付けました。溪流けいりゆうの春を知らせる植物です。

イヌコリヤナギ *Salix integra* (ヤナギ科)



撮影: 今井 建樹

生態情報

I 大きさ、葉の形

高さは普通2~3mで、まれに6mに達する低木です。小枝はまっすぐで、表面は滑らかで毛はありません。葉は細長く、毛はなく、縁に細かい鋸歯(ギザギザ)があります。

I 生えている場所

北海道、本州、四国、九州の水辺や湿ったところに生えます。

I 花のようす

花の咲く時期は、南の地方では3月中旬から、北海道では5月上旬~中旬です。花は葉より先に現れます。

参 考

水際を代表するヤナギ類です。

蝶のタテハチョウ類のコムラサキの幼虫の食草です。

ブナ *Fagus crenata* (ブナ科)



撮影: 今井 建樹

生態情報

I 大きさ、葉の形

冬に葉をおとす落葉の高木で、高さ30m、太さ15mになります。葉には柄があり、卵形で、先は尖ります。縁には波状の鋸歯(ギザギザ)があります。葉の脈は7~11対です。

I 生えている場所

北海道(渡島半島の黒松内、長万部以南)、本州、四国、九州の温帯山地の肥沃な(栄養のある)土壌(つち)の厚いところに生えています。

I 花のようす

花の咲く時期は5月です。雄花と雌花は同じ木につきます。実は甘く、トゲのついたイガがついた三角の形の種子です。

参 考

溪流周辺の樹林に広く生育します。また、溪流周辺の樹林に生息する野生動物が住みところや休むところとして利用しています。特に、ドングリは貴重な餌となっています。